

奈良県指定文化財調査票

調査日	2021 年	3 月	13 日	記入者	前田景子
調査者名	亀田	神野	鈴木	東辻	前田

文化財名	コウヤマキ群落				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1957年(昭和32)6月13日				
所在地	吉野郡吉野町吉野山				
所有者 管理者	個人				
員数					
時代区分					
樹木の場合	(樹木名) コウヤマキ			(樹齢) 140年以上。最大樹は400年	
案内板の状況	奈良県の説明板はないが、吉野町の説明板に県指定と表示				
公開	入山する時は個人所有に付き事前に了解を取る必要がある				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ()				
当面の課題	道路が出来、群落が二分されているが縦横無尽に枝を広げている。特に課題は見当たらない。個人のものだがこのままにしておいて欲しい。				
今後の課題	曲がりくねった道にこの200mだけが「今の何やった」と振り返るような変わった木が生えている。普通コウヤマキはまっすぐ大きくなるものだがお盆の供花に枝の先を切ってきたため分岐に分岐を重ね長い年月の内にくねくね、うねうね状態となったようだ。自然の為せる技といえよう。木も元気なのでこれからもくねくねの技を進化させて欲しい。				
その他 (由緒など)	「吉野山去年のしをりの道かへてまだ見ぬ方の花をたづねむ」と西行が歌った花の名所の吉野山だが一角にはコウヤマキがこんなに自由にくねくね育てている。サクラは御神木として保護されて来、コウヤマキは生活の延長と自然の調和の結果だ。				
コメント	吉野郡下市町広橋あたりはお盆の時期になるとコウヤマキの出荷で忙しい。コウヤマキは円錐形で根が浅い為雪の重みで根がひっくり返ることもあるそうだが、このコウヤマキは柳のようにしなやかに自由に枝を延ばし、ひそひそ話をするようにくっつきあって森を成している。生きた化石といわれるコウヤマキは貴重な植物だが、群落しこの奇妙な枝ぶりなので印象もなお強い。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2021 年	3 月	13 日	記入者	前田景子	
調査者名	亀田	神野	鈴木	東辻	前田	

文化財名	コウヤマキ群落
------	---------

吉野町の説明板(県の天然記念物指定と表記)	円錐形を成していない
-----------------------	------------



コウヤマキの葉

赤茶けた幹がもがいているように枝を広げる



県道37号線沿いの200mだけが不気味な樹相

道の上側の巨木(推定樹齢400年)

